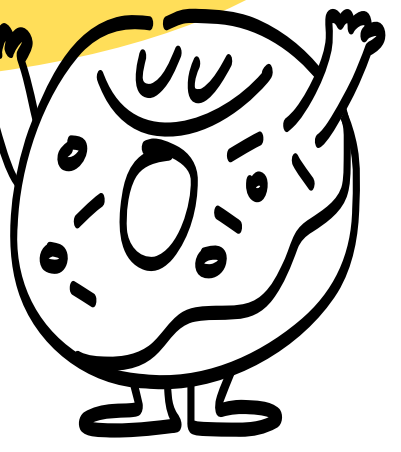




ほっと通信

先日、映画「トイストーリー5」を見てきました！
今回はAIやゲームとおもちゃたちがテーマになっていて、考え
させらるテーマだったし、すごく面白かったです！
そしてなんだか胸がいっぱいになってけっこう泣きました！
明日、厚生会の映画会行かれる方、楽しんでみてください！！



7月11日、「第29回みのおの子どもを育てるおとなたちの学習会」@メイプルホール
に行ってきました！今回は、研修レポートと本の紹介です！

研修レポート

『子育てのアタリマエを手放そう』 ～“ちゃんと”の呪い”との付き合い方～

「第29回みのおの子どもを育てるおとなたちの学習会」
@7/11メイプルホール

学習会では、毎年恒例の寸劇（保護者と教職員による）がありました。「学校はちゃんと毎日遅れず行くもの」「宿題は毎日ちゃんと出すもの」…そんな子育ての「アタリマエ」に追い詰められるおとなたちが、おとな同士で話し合い、「ちゃんと」の付き合い方を考えていきます。萱野小学校の幼保小連携の取り組み「架け橋プログラム」や朝ごはんを提供する「喫茶in二中」の取り組みの報告もあり、他校の素敵な取り組みを知ることができてよかったです。

講演は社会福祉士で子どもソーシャルワーカーの小谷綾子さんのお話でした。小谷さんは、ソーシャルワーカーのことを「権利と環境の専門家」と呼び、この日は主に、不登校について「子どもの権利」と「環境調整」の視点からお話ししてくださいました。全ての人に「基本的人権」があることは世界人権宣言にも定められていますが、子ども期には固有の権利があり、「まもられる」という視点と権利の行使主体であるためのリストが子どもの権利条約に定められています。不登校になると奪われる権利がたくさんあること、環境とのミスマッチから学校に行けない状況が生まれるため環境調整が必要、とおっしゃっていました。私自身、子どもの権利や環境調整について、もっと知りたい、考えたいと思いました。

それにしても、このテーマ、面白いですね。「ちゃんと話を聞こう！」「ちゃんと残さず食べよう！」「ちゃんと座りましょう！」…私も多分しょつ中言っています。「ちゃんと」できないのにはその子なりの理由があってそこにも目を向けなきゃ…と思う一方で、「ちゃんと」することで身に付く力や、守られる安心・安全もあると思うと、悩ましい…です。そして、自分自身、教員としても親としてもさまざまな子育ての「アタリマエ」に囚われていることに改めて気付かされました。学校、保護者、地域の大人が、立場を超えて、子育てに関わる大人として、「アタリマエ」について話題にして話していけたらいいな～と思いました。

本の紹介



「包摂する教室」小谷綾子著 2025明治図書

ご講演された小谷さんが昨年出されたご著書です。発達特性、虐待、不登校、ヤングケアラー、外国にルーツのある子、性に関する課題のある子たち…ケース会議で考えるような困り感を抱えている子たちはもちろん、全ての子たちが教室で共に学ぶため大切なことが載っています。教室以外の場を作るのではなく、全ての子たちがありのままの姿で安心して過ごせるような「包摂する教室」になるためのヒントになります！次期指導要領には、「多様性の包摂」という文言も入ってきます。この本、私も持っていますので、読みたい方は声をかけてくださいね。

「こどもかいぎ」

「もっと こどもかいぎ」 北村裕花著 フレーベル社

校長室の前に置いてあった絵本です。

「おこられたときはどうしたらいいか？」「いいたいことがあるときはどうしたらいいか」というテーマで、幼稚園のこどもたちが会議します。幼稚園の子たちが、意見を出し合って、自分たちなりに解決していく様子がとってもかわいく、頼もしいです。「子どもの権利」を考える時、こういう場を作っていくことが大事なんだろうな、とヒントになる絵本です。

校長室にあるので、ぜひ手に取って読んでみてください！

